



THE JAPANESE SCHOOL in LONDON

# ロンドン日本人学校だより 3

## 学校教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく  
国際社会を生きぬく児童生徒の育成  
合い言葉：自立・貢献

2022(令和4)年

月1日発行

ロンドン日本人学校  
令和3年度 第11号

## 「舞台」の話

校長 石山 秀樹



「校長先生がこのロンドン日本人学校でやりたいことは、どんなことですか？」

2月に行われた「中学部2学年 校長面接」で、ひととおり一対一の面接練習が終わった後、「何か質問はありますか？」と生徒に促したところ、生徒が発した質問でした。ちょっと面くらいましたが、「児童生徒の皆さんが、そこで思いっきり勉強したり、遊んだり、活動したりできる『舞台』を作り、整え、支えること」という内容のことを答えたように記憶しています（細部が違っていたらごめんなさい）。

2月22日(火)には、先生方の手によって体育館に舞台が作られました。この舞台で、きたる3月11日には卒業式・修了式が行われ、卒業生一人一人が卒業証書を受け取り、この1年間を振り返って児童生徒代表が言葉を述べることでしょう。昨年10月に作られていた舞台の上では、2年振りに開催された「創立45周年記念文化祭」で、小1から中学部までの全ての児童生徒がこの舞台を中心に劇・歌・音楽やダンス等々、それまでの毎日の準備や練習の全てを注ぎ込んだ出し物を披露しました。このことは、私にとって今でも鮮やかな思い出となっています。

「舞台」は、そのもの単独ではそれほど多くの価値を生み出し得ません。学校から車で20分程のところ「ウェンブリー・スタジアム」という「舞台」があります。印象的な白い大アーチが遠くからでも見えるウェンブリーは、「フットボールの聖地」として知られ、いくつもの名勝負、選手たちの熱いプレーが観客を熱狂させてきたほか、ロックやポップスを中心としたミュージシャン達がコンサートを開き、その姿をファンの心に焼き付けてきたことで人々の記憶、ときには人の人生そのものにその名を残してきました。

ウェンブリー・スタジアムと種類は異なりますが、学校は、「大人になり、社会に出ていくための準備をするところ」であり、児童生徒諸君が成長していくための「舞台」です。

築120年を超える赤煉瓦の校舎を「舞台」に、

児童生徒諸君が毎日生活し、共に授業で学び、共に行事の成功を目指して準備や練習に打ち込み、共に関わり合う中で笑いあったり、時には泣いたりもする、その中で皆が成長していくことにこそ価値がある、と私は考えています。

冒頭の生徒の質問に私が答えた「校長として、このロンドン日本人学校でやりたいこと」とは、そのような「舞台」を作り、整え、支えることにほかなりませんし、言い換えれば、それは校長の仕事そのものと言えるでしょう。ここ数年間のOfsted監査に基づく学校閉鎖の危機、コロナ禍による学校の一時閉鎖措置等は、その「舞台」の土台を揺るがすものでしたが、学校スタッフの力、保護者の皆様はじめ多くの方々のお理解や御支援をもって、この「舞台」を支え続けることができました。

「校長先生は授業が無くて、お仕事はつまらないですか？」と率直に聞かれ、苦笑したこともありました。確かに私の仕事は、児童生徒諸君と顔を合わせるのは朝と夕の挨拶だけで、担任をするわけでも授業をするわけでもないのは、ちょっと寂しく感じることはあります。それでも、自分達が支えてきた「舞台」で児童生徒諸君や先生方が様々な活動に一生懸命に、真剣に、そして愉しんで取り組み、たくさんの経験を蓄えて成長してゆく姿を見ることは、私の大きな喜びであり、大きな達成感を感じるころでもあります。そうして「支えられて」成長していった子供達が、ゆくゆくは「支える側」となって、社会に貢献できる人物になってほしい、それが私の思いです。

ロンドン日本人学校が、いつまでもそのような成長の「舞台」であることを、そしていつか学校を離れても、困ったときにはいつでも思い出せるような「拠り処」であることを願っています。

最後に、私もこの3月をもって任期満了のため、ロンドン日本人学校を離れることとなりました。3年間の在任中にお世話になった皆様の、更なる御健勝と御活躍をお祈りしております。